

表紙写真解説

世界文化遺産に決まった平泉

2011年6月25日（日本時間）、パリで開かれたユネスコ世界遺産委員会で「平泉の文化遺産」が世界文化遺産への登録を決めた。東北地方では自然遺産の白神山地に続いて2件目、文化遺産としては国内12件目となった。平泉はすでに世界文化遺産候補として日本政府の推薦を受けていたが登録ならず、3年越しのうれしい知らせとなった。正式な登録名は「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」。

平安時代末期、奥州藤原氏が栄華を極めた平泉の地には、「浄土」の再現をめざしたさまざまな仏教施設がつくられた。海外からの影響を受けつつ日本で独特の進化をとげた浄土思想のもとに、この世に理想の世界をつくりだそうとしたものであり、今に伝わる建築物・遺跡からも、当時の栄華や思想を感じることができる。

世界文化遺産に登録された施設は、北上川の右岸、衣川と太田川の2本の川にはさまれた高

台とその周辺に点在している。写真はその全景を、東側からとらえている。手前の大きな川が北上川で、右から左に流れる。写真中央の小高い山が「金鶏山（写真中①）」で、その右の高台はおもに「中尊寺（②）」の境内となっており、金色堂をはじめとするさまざまな文化財がある。

中尊寺とともに、浄土の再現をめざした庭園で有名な「毛越寺（③）」は、左手の低地に位置しており、写真でも庭園の池などが見える。そのほか、毛越寺に隣接する「観自在王院跡（④）」（現在は史跡公園）と「無量光院跡（⑤）」が世界遺産登録された。

これら建築物・遺跡だけでなく、平泉には浄土思想を背景にした民俗芸能や宗教的な儀礼などが色濃く残っており、この点も世界遺産登録の際の観点となった。

お詫びと訂正

現在ご使用いただいております下記の副教材に誤りがございました。謹んで訂正いたします。誠に恐縮でございますが、ご指導の際にご配慮賜りますよう、お願い申し上げます。ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

『アドバンス 中学地理資料』（平成23年2月25日発行）

p.79 ⑨小麦、とうもろこしの輸出先

凡例の矢印の色（※地図中の矢印の色は正しいものです）

〔誤〕 とうもろこしの輸出量が「オレンジ色」、小麦の輸出量が「緑色」

〔正〕 とうもろこしの輸出量が「緑色」、小麦の輸出量が「オレンジ色」